

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画			
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数		実施内容	
1	職務の理解 6時間	1	職務の理解 6時間	1	職務の理解
	(1) 多様なサービスの理解		(1) 同左 3		(1) 講義のみ
	(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左 3		講義及び演習 居宅、施設における介護の仕事にはどのようなものがあるか、また注意しなければならない点について、グループで検討し発表する。
2	介護における尊厳の保持・自立支援 9時間	2	介護における尊厳の保持・自立支援 9時間	2	介護における尊厳の保持・自立支援
	(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 同左 5		講義及び演習 高齢者、障害者(児)への虐待としてどのようなものがあるか、またその解決法についてグループで検討し発表する。
	(2) 自立に向けた介護		(2) 同左 4		(2) 講義のみ
3	介護の基本 6時間	3	介護の基本 6時間	3	介護の基本
	(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左 1		(1) 講義のみ
	(2) 介護職の職業倫理		(2) 同左 2		(2) 講義のみ
	(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左 1		講義及び演習 受講者自身が訪問介護を行った場合を想定して、介護リスクには、どのようなものが考えられるか、グループで検討し発表する。
	(4) 介護職の安全		(4) 同左 2		(4) 講義のみ

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間		4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間		4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
	(1) 介護保険制度	(1) 同左	5		講義及び演習 介護保険制度創設の背景及び目的 (1) 及び各サービスや地域支援の役割について、グループで検討し発表する。
	(2) 障害者総合支援制度及びその他制度	(2) 同左	2		(2) 講義のみ
	(3) 医療との連携とリハビリテーション	(3) 同左	2		(3) 講義のみ
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間		5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間		5 介護におけるコミュニケーション技術	
	(1) 介護におけるコミュニケーション	(1) 同左	3		講義及び演習 言語・視覚、聴覚障害者とのコ (1) ミュニケーション上の留意点を学ぶため、二人一組でロールプレイングを体験する。
	(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	(2) 同左	3		(2) 講義のみ
6 老化の理解 6時間		6 老化の理解 6時間		6 老化の理解	
	(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	(1) 同左	3		講義及び演習 加齢・老化に伴う生理的な変化や心身 (1) の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化による心理的特徴にはどのようなものが考えられるか、グループで検討し発表する。
	(2) 高齢者と健康	(2) 同左	3		(2) 講義のみ
7 認知症の理解 6時間		7 認知症の理解 6時間		7 認知症の理解	
	(1) 認知症を取り巻く状況	(1) 同左	1		(1) 講義のみ
	(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	(2) 同左	2		(2) 講義のみ
	(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	(3) 同左	1		講義及び演習 認知症の心理・行動のポイント、認知症 (3) の利用者への対応、コミュニケーションのとり方及び介護の原則についてグループで検討し発表する。

	(4) 家族への支援	
8 障害の理解	3時間	
	(1) 障害の基礎的理解	
	(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識	
	(3) 家族の心理、かかり支援の理解	
9 こととからだのしくみと生活支援技術	75時間	
ア 基本知識の学習	10～13時間	
	(1) 介護の基本的な考え方	
	(2) 介護に関することとからだのしくみの基礎的理解	
	(3) 介護に関することとからだのしくみの基礎的理解	
イ 生活支援技術の講義・演習	50～55時間	
	(4) 生活と家事	
	(5) 快適な居住環境整備と介護	
	(6) 整容に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護	
	(7) 移動・移乗に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護	
	(8) 食事に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護	

	(4) 同左	2
8 障害の理解	3時間	
	(1) 同左	1
	(2) 同左	1
	(3) 同左	1
9 こととからだのしくみと生活支援技術	75時間	
ア 基本知識の学習	10時間	
	(1) 同左	2
	(2) 同左	4
	(3) 同左	4
イ 生活支援技術の講義・演習	55時間	
	(4) 同左	2
	(5) 同左	4
	(6) 同左	7
	(7) 同左	7
	(8) 同左	7

	(4) 講義のみ
8 障害の理解	
	講義及び演習 ICFの分類と医学的分類、ICFの考え方、ノーマライゼーションの概念についてグループで検討し発表する。
	(2) 講義のみ
	(3) 講義のみ
9 こととからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	
	(1) 講義のみ
	(2) 講義のみ
	講義及び演習 利用者の負担にならないために、また介護者自身の負担にならないためのボディメカニクスのあり方についてグループで検討し発表する。
イ 生活支援技術の講義・演習	
	(4) 講義のみ
	(5) 講義及び演習 高齢者・障害者(児)に起こりやすい事故及び予防策について、実技演習を行う。
	(6) 講義及び演習 洗面の方法、衣類の着脱介護について二人一組で実技演習を行う。
	講義及び演習 移乗の介護、移動の介護、肢体不自由者の歩行介助、視覚障害者の歩行介助について二人一組で実技演習を行う。
	(8) 講義及び演習 食事介助について二人一組で実技演習を行う。

(9)入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(9) 同左	7	講義及び演習 入浴に関連した用具について学ぶとともに、
(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(10) 同左	7	(9) もに、足浴、手浴、清拭、洗髪について二人一組で実技演習を行う。
(11)睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 同左	3	講義及び演習 排泄を取り巻く用具を学ぶとともに、おむつ類の使用方法について二人一組で実技演習を行う。
(12)死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	(12) 同左	3	講義及び演習 睡眠を取り巻く用具を学ぶとともに、ベッドメイキングの手順、シーツ交換の手順、リネン類のたたみ方についての実技演習を行う。
(実習) [※] (50～55時間中12時間以内)	(実習) [※] 8時間		(12) 講義のみ
介護実習 ○時間	介護実習 8		(実習) [※]
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間			特別養護老人ホーム青陽園にて実習を行う。
在宅サービス提供現場見学 ○時間			
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	ウ 生活支援技術演習 10時間		ウ 生活支援技術演習
(13)介護過程の基礎的理解	(13) 同左	5	講義及び演習 介護過程におけるチームアプローチの重要性及び利用者を孤独にさせない工夫について、グループで検討し発表する。
(14)総合生活支援技術演習	(14) 同左	5	(14) 講義及び演習 一連の生活支援技術について実技演習を行う。
10 振り返り 4時間	10 振り返り 4時間	10 振り返り	
(1)振り返り	(1) 同左	3	講義及び演習 各目でチェックシートを活用し、学習到達度チェックを行うとともに各科目に戻って学習を深める。
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	(2) 同左	1	(2) 講義のみ
追加カリキュラム			
計 (130時間)	計 (130時間)		

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。